

# CubeⅡにBS



盛岡という星でプロジェクト

## 若者の交流の場に

### 移住希望の相談にも対応

盛岡市が2018年度から、東京圏での関係人口の創出や移住・定住を促進するため取り組んでいる「盛岡という星で」プロジェクトで、若者への情報発信や地域課題解決の場とする交流拠点「BASE STATION」(BS)が今月から、盛岡市菜園のパークアベニュー・カワトクCubeⅡで本格稼働した。4日、関係者が集い、オープニングセレモニーが行われた。

BSは、①移住を希望する人が相談する場 ②東京圏の関係人口と地元企業・団体を結びつけ、地元が抱える地域課題を解決する場 ③若者の探究学習向けのプログラムを提供する場Ⅰの三つの役割を担う。

CubeⅡの地下1階に設けられたスペースは、SNSによる情報発信の内容の編集や移住ツアーの受け入れなどを行う市の「盛岡という星でBASE STATION」のオープニングセレモニーで発表されたロコ

ス、イベント・学びの場、企画ギャラリー、シェアオフィスで構成。

既に移住コーディネートや地域おこし協力隊員を配置し、活動を始めている。

裕明市長は「テレワークの浸透などにより、地方移住への関心が高まっている。官民一体となって本市への人の流れをつくる取り組み

を進める」として、中心市街地のにぎわいづくりにもつなげると期待する。多くの交流が生まれることを祈念する」とあいさつした。

この日は、BSのロゴも発表された。考案したホームシックデザイン(盛岡市中央通)の清水真介代表は、「

「The Planet MOR IOKA BASE STATION」の頭文字を組み合わせ、「この場をどんどん変えていけるように、上下左右がない、回転にも堪えられるようなデザインにした」と説明した。

また、市は21年度にBSを活用して地方創

本校がプロジェクトモデル校に指定されました。

医療・福祉・ボランティアについての学びを深めていきます。

生について学ぶモデル校として、盛岡一高、盛岡二高、盛岡市立高、盛岡スコーレ高の4校を指定した。4校は、地方創生、福祉・医療分野、SDGs(持続可能な開発目標)、食や手仕事に関する出前講座などを実施していく予定という。